

Niigata Award News

(食の新潟国際賞財団通信)

2010/11/25

第6号(表彰式典特集号)



Niigata Award

全日程

10月29日(金)

午前 新潟大学特別講演(ジョーンズ氏)

午後 公式昼食会 記者会見 表彰式 祝賀会

10月30日(土)

午前 受賞記念講演

午後 新潟薬科大学特別講演(藤森氏)

エクスカージョン

第一回食の新潟国際賞表彰式典開催



正賞モニュメントを手にする受賞者3名

平成22年10月29日、30日の二日間、第一回食の新潟国際賞表彰式典が開催されました。

日本唯一の食の国際賞表彰式には、各界から数多くのご来賓にお集まり頂きました。式典の様様を詳しくお伝えします。



表彰式風景



記者会見会場で

第一回食の新潟国際賞表彰式

表彰式は、はさがけに飾られたステージで狩野泰一さんの篠笛の演奏と共に厳かに始まりました。ご来賓の農林水産省農林水産技術会議研究総務官 松田様のご挨拶、唐木選考委員長の選考報告に続いて、表彰状並びに正賞モニュメント、副賞目録の贈呈が行われました。

続いて、受賞者3名による受賞スピーチが行われました。健康上の理由で残念ながら出席できなかった袁隆平氏のスピーチは、ご子息の袁定阳氏に代読いただきました。

国際連合食糧農業機関日本事務所長 横山様からお祝いのお言葉を頂き、篠田副理事長の感謝スピーチで表彰式は幕を閉じました。



表彰状授与



松田 紀子 様



横山 光弘 様

正賞モニュメント

正賞として授与されたモニュメントは、新潟県佐渡市出身の世界的な金属工芸作家であり、東京藝術大学学長の宮田亮平先生によって制作された「シュプリングェン」です。テーマは「跳躍。そして希望」。未来に向かって2頭のイルカが力強く宙を舞います。



受賞の言葉（全文）



本賞：モンティ・パトリック・ジョーンズ氏
（アフリカ農業研究フォーラム事務局長）

古泉理事長はじめ、篠田市長、唐木選考委員長
また関係者の皆様、食の新潟国際賞受賞にあたり、心より感謝申し上げます。この受賞は、わが大陸での飢餓をなくそうと日々戦っている何千人ものアフリカの研究者たちの勇気と努力に対して評価を頂いたのだと認識しております。その闘いの中で、いくつか成果はあげておりますが、いまだ3億人以上のアフリカ人が、飢えに苦しみながら朝目覚め、夜眠りにつくという状況ですから、まだ飢餓との戦いに勝利したとは言えません。

世界で2つ目の食の国際賞制度として2009年3月に設立された食の新潟国際賞財団から、このような賞をいただき大変光栄に思っております。まだ設立されて間もないということではありますが、財団は私の専門である農業を含め様々な分野において、研究、研修、企業間の開発促進においてリーダーシップを発揮されております。世界の食糧供給の定量的そして定性的進歩を図りながら、飢餓や貧困を減らすために戦っている人々を評価してくださる財団を私は高く賞賛いたします。

この賞を今受け取りながら、多くの人々が「この人は一体何をしてこのような賞を得たのだろうか」と思っていらっしゃるかとは私に感じました。私は幸運にも自分のキャリアにおいて優れた研究管理者、研究者、行政官またサポートスタッフに恵まれてきました。彼らの存在なしではNERICAの開発は成功しませんでしたし、そのおかげで2004年に世界食糧賞を受賞させていただきました。

また、私は世界中の素晴らしい協力者の方々にも恵まれて参りました。特にNERICA栽培に初めて投資や労働を捧げてくれた小自作農家の人々に感謝しております。彼らが新品種を採用するリスクを受け入れてくれたこと、また彼らの苗の選別のフィードバックがなければNERICAの物語は変わっていたかもしれません。アフリカ中の米生産を大きく変える品種となるのではなく、アフリカ米センターの棚に眠っている品種に止まっていたかも知れません。

更に私のこれまでの成果に陰で貢献してくれている家族に感謝しております。特に私の妻ジェラルディン、子どもたちが犠牲になって私をサポートしてくれたことに本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

世界食糧賞をいただいたことで、FARAアフリカ農業研究フォーラムの事務局長という大きな責任を仰せつかり、アフリカの農業イノベーションの可能性を強化する努力をしております。またGFAR農業研究グローバルフォーラムの議長としてグローバル農業開発システムの展開を評価するイニシアティブに取り組んでおります。

食の新潟国際賞が私の農業革新の成果に対し、評価をくださったことがアフリカ及び世界中の学生や若い研究者たちに刺激を与え、今後有力なチームを組んで素晴らしい事を達成してくれること、そしてアフリカやアジアの農業をより進歩させていく意義を信じ続け、飢餓との戦いに勝利していくことを願っております。

このような名誉ある賞を頂き、また新潟市という美しい街に私と妻をお招きいただき本当にありがとうございました。食の新潟国際賞財団はじめ皆様の更なるご活躍とご成功をお祈り申し上げます。ありがとうございました。



佐野藤三郎特別賞：袁 隆平氏

(中国国家雑交水稻作業技術センター主任)

代読：袁定陽博士(同上研究員、袁氏ご子息)

この度は第一回食の新潟国際賞を受賞できましたことを非常に光栄に思っております。選考委員の皆様がハイブリッド米の普及による収穫量増加及び私個人がハイブリッド米の研究に取り組んできたことを高く評価してくださったことに深く感謝を申し上げます。

ハイブリッド米の成功は、稲の育種における偉大な進展であり、米の収穫量を高めることが出来ました。中国だけでなく、世界各国からの栽培実績からも、その顕著な増産が認められております。ハイブリッド米の世界規模での普及は、食糧の安全保障及び世界平和の促進に大きく貢献できると思います。また、ハイブリッド米の成功は、中国政府による強力なサポート及び農業に力を注いできた科学技術者達と共に努力してきた結果であり、私本人は率先してきただけです。この賞は私にとって、大きな励みとなり、今後も精進していきたいと思っております。科学には国境はありません。ハイブリッド技術は中国だけのものではありません。全世界のものであります。また、人々の豊かな生活のために私どもは今後もハイブリッド米を全世界、特に発展途上国での普及に最善の努力を尽くして参りたいと思っております。ハイブリッド米が人類の為により大きな貢献ができることを祈念いたしまして、私のごあいさつといたします。どうもありがとうございました。



21世紀希望賞：藤森 文啓氏

(東京家政大学家政学部

環境教育学科准教授)

この度は、栄えある第一回食の新潟国際賞をいただき本当にありがとうございます。また、この場をお借りして、古泉理事長や選考委員長をしていただきました唐木先生、関係各位の方々に御礼申し上げます。また、本日この場に足を運んでいただいた皆様に御礼申し上げます。

食の今後の50年先、100年先のことを考えますと、今できる研究成果を基礎研究だけで終わらせるだけでなく、いかに応用研究という形で展開していくかが重要だと考えます。そういう意味で、研究を展開していく「活力」という点でこの受賞にはモチベーションをあげていただきました。今後、これをバネに研究員共々精進していきたいと思っております。本当にありがとうございました。

祝 賀 会



菊田 真紀子 様

表彰式に続いて行われた祝賀会は、表彰式と同じく狩野泰一さんの篠笛をオープニングに始まりました。

祝賀会では、以下のご来賓の方々からご祝辞をいただきました。

- ・外務大臣政務官 菊田 真紀子 様
- ・新潟県副知事 神保 和男 様
- ・駐新潟大韓民国総領事館総領事 延 上模 様
- ・在新潟ロシア連邦総領事館総領事 ブーチン・セルゲイ 様
- ・中華人民共和国駐新潟総領事館総領事 王 華 様
(代読:副総領事 宮 暁冬 様)
- ・独立行政法人 国際協力機構(JICA) 副理事長 大島 賢三 様
- ・国際稲研究所(IRRI) 理事 岩元 睦夫 様
- ・独立行政法人 国際農林水産業研究センター(JIRCAS)
理事長 飯山 賢治 様
- ・独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構理事、食品
総合研究所所長 林 清 様 (順不同)

尚、当財団吉田理事が賛助会を代表して感謝のスピーチを述べました。



大島 賢三 様



林 清 様



岩元 睦夫 様



飯山 賢治 様



吉田 康 理事



狩野氏のオープニング演奏

受賞記念講演

10月30日午前10時より行われた受賞記念講演では、今回の受賞理由となった分野について貴重な講演を行っていただきました。

講演要旨

「世界で10億人が飢餓で苦しんでいる。アフリカが最も多く、今も毎日2万5千人が栄養不足で亡くなっている。貧困と飢餓の悪循環だ。一方、アフリカの人口は増え続け、40年後の食糧需要は2倍になる。設備や技術、研究への投資が必要だ。私が開発した米のネリカ種により、収量は高まり、食糧輸入費は削減された。戦いはまだ続く。今回の受賞は、アフリカ数千人の科学技術者、そして多くの学生に大きな勇気を与えるだろう。」(本賞:モンティ・ジョーンズ氏)

「中国の作付面積の57%が私が開発したハイブリッド米。現在収量・品質ともさらにすぐれたスーパー・ハイブリッド米の技術開発を急速に進めている。世界が80億人に達する見込みの2030年には、生産量を1995年比60%増やす必要がある。ハイブリッド米はすでに中国以外の各国・各地で栽培されている。技術に国境はなく、21世紀の食糧安定と世界平和のお手伝いをしたい。」(佐野藤三郎特別賞:袁隆平氏 代読:鄧啓雲氏)

「植物やキノコの工場生産が増えた。だが、病気などによる被害も大きい。そこで、異変発生と遺伝子の作用に焦点を当てた。遺伝子解析が未開拓の食用キノコで遺伝子をデータベース化した。この研究で、マツタケの人工栽培という夢物語へのアプローチも可能になった。また、野菜などの迅速な品種開発や予防医療にも利用・応用できる。これからの食の安全にさらに努める。」(21世紀希望賞:藤森文啓氏)



大学特別講演



10月29日、新潟大学で本賞受賞者モンティ・ジョーンズ博士の特別全学講義が行われました。

「世界の食糧問題とネリカ米」と題して行われた講義には、立ち見が出るほどたくさんの学生が参加しました。

アフリカにおける飢餓の現状と、その解決へ多大な貢献をしたネリカ米のお話は多くの学生たちにとってたいへん意義深い内容だったことでしょう。この講義をきっかけに、もっと食に対する関心が深まったのではないかと感じました。

(参加人数:約500名)



一方、新潟薬科大学では、10月30日に21世紀希望賞受賞者の藤森文啓先生にご講演いただきました。

「キノコのトランスクリプトーム」というテーマで、先生の研究されている食用キノコの遺伝子発現データベースの構築について専門知識を交えながらお話いただきました。

藤森先生の研究成果が私たちの食のみならず、幅広い分野で人々の福祉と健康に貢献する日も近いと、聴講された学生の皆さんも強く感じられたのではないのでしょうか。

(参加人数:約300名)



エクスカーション

30日午後には、エクスカーションが行われました。ジョーンズご夫妻、大使館職員、国際研究機関や大学の関係者、ジャーナリスト等国内外18名の方々よりご参加いただきました。

まずは有形文化財に登録されている弥次郎農園の築100年の広間で、有機米コシヒカリと旬の地元食材で作られた食事で、新潟の食を体験していただきました。

続いて、日本最大の米菓企業亀田製菓の工場で、柿の種の製造工程を見学しました。新潟の高い米加工技術を皆さんに直にご覧いただき、また製品の試食でその美味しさを体感していただきました。

最後に、佐野藤三郎氏が初代理事長を務められた亀田郷土地改良区を視察しました。ここでは、亀田郷の今昔の姿をジオラマと航空写真を使って詳しく説明いただきました。

【行程】

弥次郎農園(農家レストランで昼食) → 亀田製菓株式会社(工場見学) → 亀田郷土地改良区(展示ホール見学)



ジオラマで亀田郷の歴史を体感



佐野藤三郎氏胸像

食と花の世界フォーラムにいがた2010

第5回食の国際会議・第5回食と健康に関する新潟国際シンポジウム



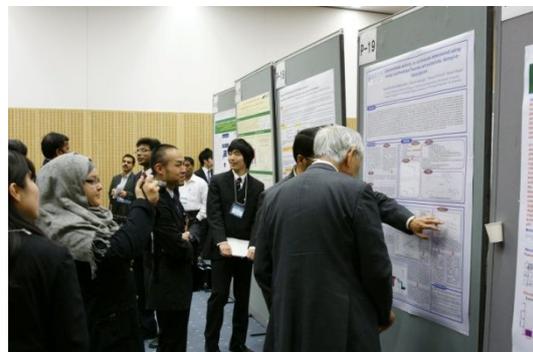
国際会議には多くの聴講者が参加

10月30日、31日の2日間、食と花の世界フォーラムにいがた2010 食の国際会議並びに食と健康に関する新潟国際シンポジウムが朱鷺メッセで開催されました。

国内外から多くの専門家・研究者を講師にお招きし、食と健康に関する様々なテーマでご講演いただきました。また、31日には非常食・災害食の企業展示もありました。



非常食・災害食展示ブースの様子



ポスターセッション会場には多くの人が

2010年日本APEC新潟 食料安全保障担当大臣会合

10月16日から17日にかけて行われた、APEC 食料安全保障担当大臣会合の会場に、食の新潟国際賞のブースを出展しました。

国際賞についてのパネルの他、ネリカ米、スーパーハイブリッド米、コシヒカリを展示しました。

開催期間中、ブースには多くの方にお立ち寄りいただき、国際賞の取組みについて興味深くパネルをご覧になっていました。



国際賞の説明を受ける



国際賞ブースの様子



左よりネリカ2種、コシヒカリ(種籾、精白米)、スーパーハイブリッド米



スペシャルサンクス

佐野藤三郎記念
食の新潟国際賞

特別会員		正会員		個人会員
亀田製菓(株)	新潟市農業協同組合	(株)第一印刷所	(株)鳥梅	井田 増夫
(株)ブルボン	新津さつき農業協同組合	新潟縣信用組合	佐川急便(株)関東支社	山口 眞樹
亀田郷土地改良区	新潟みらい農業協同組合	(株)タカヨシ	(株)山由製作所	藤島 安之
新潟県農業協同組合中央会	三井物産(株)新潟支店	(株)本間組	新潟万代島総合企画(株)	今泉 昇
学校法人新潟総合学園	(株)エイケイ	石本酒造(株)	(株)キタック	新保 房機
第四銀行	三菱商事(株)新潟支店	(株)ミカサ	鍋林(株)	大越 斎
一正蒲鉾(株)	ホテル朱鷺メッセ(株)	(株)ヤマジユウ風間	レンゴー(株)	酒井 定勝
佐藤食品工業(株)	NST	神山物産(株)	北越工業(株)	宮澤 正幸
(株)栗山米菓	(株)電通東日本新潟支社	(株)山忠	(株)北村製作所	坂田 武利
岩塚製菓(株)	(株)新潟クボタ	シヨクザイ新潟(株)	丸榮製粉(株)	佐藤 宗幸
三幸製菓(株)	(株)ADEKA	丸七商事(株)	(株)鈴木コーヒー	児玉 伸
(株)新潟日報社	亀田商工会議所	大東産業(株)	(株)テレビ新潟放送網	浅嶋 義之
東京電力(株)	にいがた22の会	藤屋段ボール(株)	(株)栗田工務店	増村 文夫
(株)新宣		伊藤忠商事(株)新潟支店	(株)細山商店	鈴木 厚生
		新潟工科大学産学交流会	三和薬品(株)	有沢 栄一
		(株)タケショー	(株)藤井商店	高嶋 潔
		日本たばこ産業(株)新潟支店	セツカートン(株)新潟工場	和田 充彦
		(株)新潟博報堂	ハセガワ化成工業(株)	河内 直史
		(株)新潟放送	日本精機(株)	
		新潟陸運(株)	東邦産業(株)	
		医療法人 愛仁会 亀田第一病院	サクラパックス(株)新潟事業所	
		(株)新潟食品運輸	日精サービス(株)	
		山崎醸造(株)	麒麟山酒造(株)	
		月島食品工業(株)	新潟商工会議所	
		松田産業(株)	(株)雪国まいたけ	
		(株)フジテレビジョン	(株)加島屋	
		日本製粉(株)関東支店	(株)日本フードリンク	
		日本甜菜製糖(株)		

(敬称略)

Niigata Award News (季刊・年4回発行)

発行:一般財団法人
食の新潟国際賞財団事務局
〒951-8131
新潟市中央区白山浦1丁目425-9
新潟市白山浦庁舎内
<http://www.niigata-award.jp>
info@niigata-award.jp